

医療現場:手術部

テーマ:蒸れない医療用ガウン

■ 背景

内視鏡手術などの様々な外科手術には手術用ガウンを、手術後の器具・手術室清掃、入浴・排泄介助、吐しゃ物処理などにはプラ製の DISPOSABLE ガウンを日々使用している。手術室、手術用器具・装置は術後速やかに洗浄し、汚染を避けることが大切である。そのため洗浄ガイドラインが制定されており、このガイドラインに則った対応が必要である。(<https://www.jsmi.gr.jp/pdf/guideline201208.pdf>)



内視鏡手術終了後、ガウン脱着時の上半身画像(汗でぐっしょり)

■ 課題

医師や看護師などの医療従事者を感染症などによる汚染から守るために、医療用ガウンの着用は必須である。しかしながら、長時間の作業となると市販されているガウン(手術用、洗浄用とも)ではガウン内の蒸れは避けられない。エアコンの効いている環境での作業だが、手術や作業完了後には自分の汗でぐっしょりになってしまう(上右図)。着替えはもちろんのこと、シャワーを浴びるなど余計な時間と手間が必要となる。

この課題を抜本的に解決してくれるガウンや方法を求めています。

■ 市場性

滋賀医科大学付属病院での手術件数は2021年度は約6,600件に上る。当病院の規模を考慮すると、全国では数百万件の手術が1年間に施行されていると思われる。手術には通常複数名の医療従事者が関与するため、年間では数十億円以上の市場規模があるものと推定される。

■ 手術部ホームページ

https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_Operation/operation/index.html